

「行動シナリオ」FOREST2015の成果

<主な取組・実績例(2015年3月現在)>

1. 学術の多様性の確保と卓越性の追求

- ◆ 国内の主要研究大学との連携体制(学術研究懇談会(RU11))を構築。研究大学に対する学術研究支援のあり方や、間接経費率の引き上げ、基盤経費の削減停止・充実を求める提言等を取りまとめ。
- ◆ **国際高等研究所**を設立、傘下の機構として数物連携宇宙研究機構(IPMU)、サステナビリティ学連携研究機構(IR3S)を附置。
- ◆ 世界トップレベル拠点プログラム(WPI)の進展(IPMUはWPIの中間評価で唯一のS評価。世界の有力研究機関を支援する米カプリ財団から寄付を受け、基金を設立、**カプリ数物連携宇宙研究機構(Kavli IPMU)**として体制を強化(。))。
- ◆ 高度な研究支援人材(リサーチ・アドミニストレーター(URA))の配置、URAスキル標準の策定、専門研修プログラムの構築、トライアルの実施、URA推進室の設置。
- ◆ 「最先端研究開発支援プログラム(FIRST)」、「博士課程教育リーディングプログラム」、「センター・オープンイノベーションプログラム(COI)」等、**大型プロジェクト採択後の活動支援**。
- ◆ ウェブサイトを活用した学術情報の国際発信力の強化。特設コンテンツ「UTokyo Research」により、研究成果を国内外に積極的に発信。
- ◆ **国際研究ハブ拠点(学内81拠点)**による国際的プレゼンスの向上。

4. 「タフな東大生」の育成

- ◆ 教育の質の向上を目指した「**学部教育の総合的改革**」を推進。
- ◆ 役員会において「**学部教育の総合的改革に関する実施方針**」を議決。「学部教育の総合的改革に係るアクションリスト」の実施。秋季入学の拡充・推進、「部局別改革プラン」の策定。
- ◆ 全学部での新たな学事暦「**4ターム制**」の導入を決定。教育の国際化、実質化、高度化に向けた**カリキュラム改革**に着手。
- ◆ 学部段階において**科目ナンバリング制の導入**(平成29年度～)を決定し、カリキュラムの構造化を促進。
- ◆ 学部後期課程でGPA(Grade Point Average)を活用した学習支援を開始。
- ◆ **英語によるアカデミック・ライティング(ALESSおよびALESA)**の充実、日本語と英語に加え、もう1つの外国語運用能力に秀でた人材を育成する特別プログラム「**トライリンガル・プログラム(TLP)**」を開始。
- ◆ 国際社会における指導的人材の育成を目的とした特別教育プログラム「**グローバルリーダー育成プログラム(GLP)**」のカリキュラムの本格始動。
- ◆ 「**体験活動プログラム**」、「**初年次長期自主活動プログラム「FLY Program(Freshers' Leave Year Program)**」により、学生の多様な学びを促進。
- ◆ **推薦入試の導入**を決定し、「東大大学推薦入試のアドミッション・ポリシー」を策定。

7. 卒業生との緊密なネットワークの形成

- ◆ **オンラインコミュニティ(TFT)**への登録者数の増加。特典サービスメニューの拡大や希望する在生学生にアカウントを付与し、「TFT学生会員」として登録を促進。
- ◆ **東京大学校友会**(旧:赤門校友会)登録団体数の増加。
- ◆ **卒業生向け生涯学習プログラム**(「東大ワールドカフェ」、「グレーター東大塾」、「東大モール」、「東大ベンチャースクエア」)の実施。
- ◆ 「海外大学院留学説明会」や「体験活動プログラム」企画提案など、**学生に対するキャリア支援**の実施。
- ◆ 「さつき会奨学金」「東大生海外体験プロジェクト」「スポーツ振興基金」等、**卒業生による経済的支援プログラム**の充実。
- ◆ **周年卒業生によるリユニオン学年会**を、ホームカミングデイにて実施。
- ◆ 地域同窓会の活性化に向け、国内外の同窓会に総長・役員が参加。**全国47都道府県すべてに同窓会を設立**。
- ◆ **会報誌「東大校友会ニュース**」を学外向け広報誌「淡青」と併せて卒業生へ送付。
- ◆ **海外同窓会ネットワークの拡充**を目指し、海外在住卒業生同窓会設立を支援。

8. 経営の機動性向上と基盤強化

- ◆ 寄附メニューの多様化等、**東大基金の充実・強化**、安定的な運用益の確保。
- ◆ **採用可能数の柔軟化**による若手教員採用枠の確保、年俸制助教に係る**採用可能数の財源化**。
- ◆ 旅費業務の外部委託、リバースオークションの導入など、**コスト管理による経費と資源の節減**。
- ◆ **施設修繕準備金制度**による、既存施設機能の健全な維持・向上。
- ◆ ハウジングオフィスの設置、宿舎入居申請オンラインシステム(OS TA)を構築・運用等、**滞在施設の充実・利便性向上**。
- ◆ 「**情報システム戦略**」を策定し、データ分析環境の整備に着手。
- ◆ **学務システム統合化**に向けた、学務業務の調査分析・仕様策定。
- ◆ **TSOP(東京大学サステナブルキャンパスプロジェクト)**に基づく全学的CO₂削減の推進。
- ◆ 教育研究の継続と温暖化防止を両立する節電対策を実施し、社会に率先する**大幅な節電目標を達成**。

2. グローバル・キャンパスの形成

- ◆ 海外のトップ大学や有力大学等との**戦略的パートナーシップの構築**を推進。
- ◆ **東大フォーラム(UTokyo Forum)**の開催等を通じた戦略的な国際連携・発信の強化。
- ◆ **国際発信のインフラ整備**(中国・北京、インド・バンガロールに事務所を設置し、韓国・ソウル国立大学との間に相互に事務所を設置。リクルーティングや広報活動の推進、海外での留学説明会の増加)。
- ◆ 休学期間中における**外国の大学での取得単位の認定**を制度化。
- ◆ 世界の有力大学との全学交換留学や国際短期プログラムを制度化し、**学生の海外派遣・受入プログラムを拡充**。
- ◆ 海外留学に関する情報提供・相談を行う「**Go Global 海外留学情報室**」を開設。
- ◆ 学生の海外留学を経済的に支援する「**Go Global 奨学金**」を開設。
- ◆ **英語で学位の取得できるコースの拡充**(学部初めのコースである PEAK (Programs in English at Komaba)や GSC(Global Science Course)の開設、大学院コースの倍増により、計44コース)。
- ◆ **英語による授業科目数の増加**(2009年度比で3倍以上に増加)。
- ◆ **外国人留学生受入増加**を目指した情報提供、経済的支援の拡充。留学生・外国人研究者用宿舎を拡充整備、**東京大学国際交流イベント企画コンテストを実施**。
- ◆ 「**スーパーグローバル大学創成支援**」事業を活用し、国際化を強化。

5. 教員の教育力の向上、活力の維持

- ◆ 「東京大学の**ファカルティ・ディベロップメント(FD)**の基本方針」を策定。
- ◆ 新任教員のための**ファカルティ・ハンドブック**を作成。
- ◆ FDに関するポータルサイト「**東大FD.COM**」を構築、教職員向けFDビデオの制作。
- ◆ **教員評価**の制度設計と適切な運用。
- ◆ **教員の業績に関する情報公開**の推進。
- ◆ 大学教員を希望する大学院学生を対象に、授業力向上を目指すための「**フューチャーファカルティプログラム**」を実施。
- ◆ ティーチング・アシスタント(TA)制度や**TA育成プログラムの充実**と量的拡大。
- ◆ 少人数の**チュートリアル教育「初年次ゼミ**」の実施。
- ◆ 人件費や研究費の補助を行い、**女性研究者の雇用を促進**。
- ◆ **外国人教員の教育・研究環境の向上**の一環として、規則等学内文書の英文化を実施。
- ◆ 教授(特例)ポスト制度やクロス・アポイント制度等、「**教員の新たな人事制度**の取扱い」を定め、若手研究者のポスト確保など教員組織の活性化を推進。

3. 社会連携の展開と挑戦 —「知の還元」から「知の共創」へ

- ◆ 価値創造型の共同研究計画スキームである「**Proprius21**」、「**Global Proprius**」等による国内外企業との共同研究の創出。
- ◆ (株)東京大学TLO、(株)東京大学エッジキャピタル(UTECH)との連携による、海外特許の戦略的取得、技術移転活動の促進及び大学発ベンチャーの支援。
- ◆ 更なるイノベーションの創出、より創造的な産学連携を推進するため、**産学連携本部を改組**(「イノベーション推進部」、「知的財産部」の2部体制)。
- ◆ 社会連携を組織的に推進する事務組織として**社会連携部を新設**。
- ◆ **伊藤国際学術研究センター**の開業。
- ◆ 「高校生のためのオープンキャンパス」、「東大の研究室をのぞいてみよう!」プログラム、プロモーションビデオの製作など、**高校生向けアウトリーチの推進**。
- ◆ 東京駅前JPタワー内のインターメディアテック(IMT)に「**IMTブティック**」をオープン。
- ◆ 英文略称の改定(UTokyo)、ロゴマークの統一(UTokyoマーク)等、**ブランド戦略を推進**。
- ◆ **大規模公開オンライン講座(MOOC:Massive Open Online Course)**でのコース配信(Coursera:4コース、edX:2コース)。
- ◆ 公開講座、EMP、グレーター東大塾等により、**社会人対象のエクステンション教育**を推進。

6. プロフェッショナルとしての職員の養成

- ◆ 人材育成の役割・機能分担等を明確にするため、「**東京大学職員の人材育成の推進体制に関する基本方針**」を制定。
- ◆ **教職協働**を推進するため、室・本部事務組織の見直し・再編。
- ◆ 教育支援、研究推進、組織運営など業務系統の共通単位毎の専門性を高めていくための「**業務レベル表**」を策定。
- ◆ **幹部職員セミナー、女性職員キャリアセミナー**の開催。
- ◆ 職員が実力本位で評価・処遇され、活躍の機会を柔軟に提供するための方策の一つとして、「**次世代リーダー育成研修**」を実施。
- ◆ 管理職登用において、推薦制を導入するなど、**幅広く優秀な者を登用**する方式を導入。
- ◆ 職員が米国大学院に留学し、大学経営等に関する修士の学位を取得する「**米国大学院留学制度**」を導入。
- ◆ **業務改革**の継続的な推進、提案業務の全学的展開。
- ◆ 「情報システム人材に関する強化・育成体系」の実施による**ICT人材の育成**。
- ◆ 教室系技術職員が有する専門的知識、技術等を最大限活かし、全体の資質の向上、ひいては、教育研究能力の一層の向上に資するため、**総合技術本部**を設置。

9. ガバナンス、コンプライアンスの強化と環境安全の確保

- ◆ 総長を本部長とする「臨時教育改革本部」を設置するなど、全学的な意見調整と迅速な意思決定を両立する**機能的な組織運営**。
- ◆ 本部に置かれる組織の整理・見直し、**業務のスリム化・効率化**。
- ◆ **自律的な組織見直し**のため、全学センターの点検・評価等を実施。
- ◆ 本部組織にとどまらず、各部局にも危機管理担当教員を配置するなど、**大学全体として危機管理体制を充実・強化**。
- ◆ 法務課の設置、「東京大学コンプライアンス基本規則」の制定等による**コンプライアンス体制の充実・強化**。
- ◆ 「研究倫理アクションプラン」を策定、研究倫理推進室の設置による**研究不正の防止、倫理教育の徹底・推進**。
- ◆ 「東京大学防災対策」の改訂、「震度5弱以上の地震における初動の行動指針」の制定、「東京大学被災建物応急危険度判定士制度」の創設、「災害対策ポケットマニュアル」を作成するなど、**災害時に有効な防災対策の検討・実施**。

10. 救援・復興支援など日本再生に向けた活動の展開

- ◆ 東日本大震災に関する**救援・復興支援室**を設置。
- ◆ 岩手県遠野市に**遠野分室、遠野東大センター(TTC)**、大槌町に**大槌連絡所**を開設。
- ◆ **救援・復興にかかると本学のプロジェクト(登録プロジェクト)**への支援を推進。
- ◆ 被災地自治体と協定・覚書を締結、被災自治体の復興会議等に参画し、復興計画の助言等、**自治体のニーズに対応した組織的な取組**を推進。
- ◆ 学生・教職員一体の「**東京大学ボランティア隊**」、学生による「**学習支援ボランティア**」を被災地に派遣。
- ◆ 「FLY Program」、「体験活動プログラム」において、複数の学生が**被災地機関でのインターンシップ**に参加。
- ◆ 学生のボランティア活動支援のため、「**ボランティア活動支援金制度**」を創設。